

青年当事者が認識する孤独に関するコンセプトマップ(Concept Map)の研究

○権順愛(昌信大学)、姜 ボジョン(昌信大学)、
金千守(昌信大学)、朴 城 慧(昌信大学・会員番号 008865)
キーワード：コンセプトマップ(Concept Map) 青年孤独 青年孤立

1. 研究目的

本研究では、コンセプトマッピングを利用して、韓国の青年世代当事者が自ら認識する「青年孤独」を概念化し、先行研究と文献考察を通じて青年孤独の実態を考察する。また、青年当事者の孤独に対する観点を比較して解決策を探り、今後青年孤独に対する支援が適切に支援されるように枠組みを設けることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

現在、全世帯類型の中、一人世帯が占める割合は33.4%である。その中1人の青年世帯と1人の老年世帯は、他の類型の世帯に比べて貧困、住宅に脆弱で、社会的孤立によるストレスと精神健康問題を抱えている(Jung & Lim, 2014; Kim, 2018)。それに加えて、他の類型の世帯に比べて韓国社会に対する全体的な生活の満足度が低いという研究結果もある(Kang, 2019; Kim & Kim, 2020; Kim & Kwak, 2020; Woo et al., 2015; Han & Lee, 2018)。青年の社会的孤立は、個人的な次元での否定的な結果を誘発するだけでなく、社会発展の次元でも原動力を喪失することになるため、国家的な次元で接近しなければならない社会問題である(Min, 2023)。青年孤独は、青年が社会的に孤立した状態を意味し、国家の発展原動力の喪失とともに青年自らが経験する孤独と精神健康の困難、さらには青年孤独死に対する問題を引き起こすことに至る主な要因といえる。

したがって、本研究は、一人の青年世帯の孤独問題を解決するために政策や事業を企画して実行するサービス提供者に、青年当事者が認識する孤独の実体を概念化して提供することにより、青年観点からの政策と事業実行の実際に寄与するためコンセプトマッピングを試みる。

コンセプトマッピングは、人々の複雑な認識を構造化してその結果を視覚的に示す意思決定方法であり、研究方法論でもある(Kane & Trochim, 2007)。この研究方法論は、特定の問題に対する研究参加者の考えと経験を収集する過程、研究参加者を通じて収集された考えと経験をカテゴリ化する過程、カテゴリ化された結果を構造化して概念の名前と意味を付与する過程に分けられる。Kane & Trochim(2007)は、この過程を①準備段階、②アイデア収集段階、③記述文構造化段階、④分析段階、⑤解析段階、⑥有用化段階に細分化している。

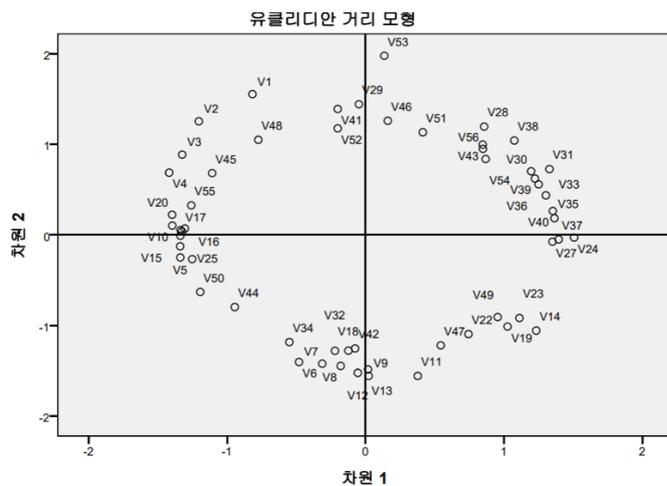
3. 倫理的配慮

本研究は慶尚南道C市に位置するC大学社会福祉学科3年生の在學生26人を対象と理的配慮を告知した後に実施した。本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。本研究がIRB審議を受けていない理由は、この研究が個人識別情報を収集・記録しない研究で、この研究を通じて民間情報収集行為が行われていないためである。

4. 研究結果

研究に参加した学生が分類した記述文のグループを活用して多次元尺度法分析(multidimensional scaling analysis)を行った結果、分析の統計的な有意性を示すストレス値が0.20、モデルの適合性は0.89となり、データの適切性と信頼性が確認された。多次元尺度法を通じて二つの次元によって青年が認識する孤独の記述文をカテゴリー化した。多次元尺度法が

ら導出されたグラフ<図1>を見ると、次元1、2に分けて群集が形成されたことが分かる。



<図1> ドットマップ

次元1 青年孤独に対する問題規定範囲（社会問題 vs. 個人問題）、次元2 青年孤独に対する原因規定範囲（社会関係的原因 vs. 現象に近い病理）に区分された。

5. 考察

青年孤独への多様な政策的、実践的アプローチが存在してきたが、主に政策及びサービス提供者の観点から青年孤独を考える議論が多かった。サービス参加者となる青年当事者の観点から、

青年孤独をどのように認識しているかについて議論がなかったため、青年孤独に対する社会問題解決に困難が存在してきた。そこで青年当事者の観点から青年孤独の意味を照らし、青年たちが定義して認識している孤独（孤立）を概念化することが必要だと判断している。青年当事者も青年孤独について社会問題として認識し、その原因が社会構造的要因、個人的要因に分かれていることを表現している。また、孤立の観点と状態、その意味についても構造化した。研究結果は、青年孤独を単に社会問題として規定するだけではなく、青年成長の過程として見なければならぬことを示唆している。青年にとって孤立は、自分の生活を省察し、大変な時期の避難所として考えることもあるため、配慮的な政策が必要となる。これらの研究の結果に基づいて、これから青年の視点を考慮した青年孤独政策とサービスを設計していくことが必要と考えられる。

6. 参考文献

- Jung, S. H., & Lim, Y. J. (2014). A Study on the Life Experiences of Employed Youth-Single-Households. *Financial Planning Review*, 7(4), 1-19.
- Kim, S. (2018). The Factors Affecting on the Suicidal Intention of Single Person Households: Based on the 6th (2013, 2015) Korea National Health and Nutrition Survey. *Journal of Korean Wellness Society*, 13(3), 489-498
- Kang, Y. J. (2019). Factors Affecting Depression of Single-person Households: Comparison among Young, Middle-aged, and older adults. *Journal of Life Sciences*, 9(1), 1-19.
- Kim, M. S., & Kim, A. N. (2020). Generation Comparison of the Factors Affecting Life Satisfaction of One-person Households. *Journal of Korean School and Community Health Education*, 21(1), 15-31.
- Kim, Y. J., & Gwak, I. K. (2020). An Exploratory Study on the Residential Environment and Depression of Single-Person Youth Households. *Journal of Korea Spatial Design Society*, 15(4), 241-255.
- Woo, M. H., et al. (2015). A Study on Leisure Activities and Family Values of the Younger Generation in the One-Person Household: Focusing on Comparisons with the Younger Generation in the Multi-Person Household. *Korean society*, 16(1), 201-231.
- Han, S. M., & Lee, S. J. (2018). Quality of Life of Youth Living Alone: With the Focus of Social Capital Influence. *Convergence Society and Public Policy*, 12(1), 60-85.
- Min, K. H. (2023). A Comparative Study on the Supporting Ordinance for Socially Isolated Youths. *Gyeonggi Research Institute*.
- Kane, M. & W. M. Trochim. (2007). *Concept mapping for planning and evaluation*. Thousand Oaks, CA: Sage Publication.